

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

石 田 宏 代

今 井 智 子

宇 野 彰 準

勝 木 美 子

熊 倉 勇 子

倉 内 紀 子

小 林 範 子

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

深 浦 順 一

矢 守 麻 奈

6月14日、大学の研究室にいて、長く続く地震の揺れを感じました。それは、岩手・宮城内陸地震の揺れであったことが、後でわかりました。本年は、中国四川省の大地震に続き、わが国でもこのような天災が生じ、多数の方々が被災されました。被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早く平穏な日々を取り戻されるよう祈ります。

本号では、第8回日本言語聴覚学会におけるシンポジウム「言語聴覚士のあり方—小児の言語聴覚領域の現状と課題」を掲載しました。小児言語障害領域では、平成19年から特別支援教育が本格的に始まり、対象児の幅が従来の特殊教育対象者から大きく広がりました。通常の学級に学習や行動で著しい困難を示す児童が6.3%在籍するといわれており、このような児童への言語聴覚士の専門的対応が進むことが期待されます。本シンポジウムでは、このほか地域の療育センター、耳鼻科医院、県レベルの取り組みと今後の課題が実践例を通して紹介されており、臨床の今後の方向性が見えてきます。

2編の原著論文は、一方は失語症、他方は小児を対象としていますが、いずれも文字情報処理に関するもので、真に興味深い知見が述べられています。短報も読み書き障害に関するもので、支援技術を検討しています。今回の調査報告は、高齢者に対する聴覚臨床についてまとめられています。

去る6月21・22日に第9回日本言語聴覚学会が開催されました。発表した内容を論文にまとめることは非常に重要であり、多くの方が今夏、論文執筆に取り組まれることを期待しています。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第5巻 第2号)2008年7月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-16 霞ビル801

(☎03-6412-9853 FAX 03-6412-9854) <http://www.jaslht.gr.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Kasumi-Build. #801, 2-5-16 Shinjuku Shinjuku-ku, Tokyo, 160-0022, Japan

©2008, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23(振替口座00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎03-3814-1971(FAX 03-3814-8915)